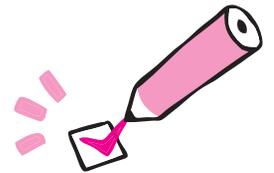


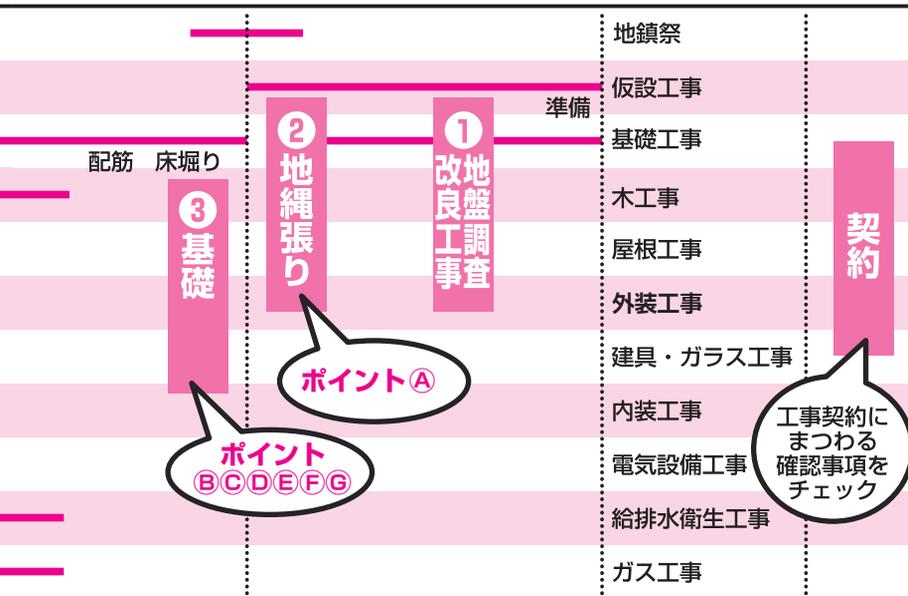
工事の流れと見学のポイント

【木造軸組工法の例】



工事のスケジュール

ここで紹介する工期は、あくまで目安です。なお、構造や断熱に関わる部分は、内装工事を行うと見えなくなってしまうなど、その時期にしか確認できないこともあるので、こまめに足を運ぶことが理想です。



10日

工事現場のチェックは設計図や仕様書を見ながら行おう

ここでは、木造軸組工法の一般的な例をもとに、工事の流れに沿って具体的な工事内容を解説しています。現場をただ見学するのではなく、どの工事が行われているのか、施工中の注意点を把握しておけば万全です。設計図や仕様書、工程表と照らし合わせて、細かなチェックをしていきましょう。

①地盤調査、改良工事

軟弱な地盤のまま建築してしまうと、基礎全体が沈む「地盤沈下」や軟らかい部分だけが斜めに沈む「不同沈下」で家が傾く危険性があります。住宅本体の工事はもちろんですが、本体より基礎、基礎より地盤に注目し、強度が足りなければ地盤改良を行います。地盤改良工事の方法については「地盤調査と地盤改良」の項目(p.347)を確認してください。

③基礎

基礎は鉄筋コンクリートで造られ、家の重さを全て支える重要な部分。一般的に、「ベタ基礎」と「布基礎」の2つの工法があります(図1)。どちらの場合も基礎工事は、その基礎の根元となる部分の土を掘ることから始まります。まずチェックしたいのは、碎石(割栗石)を置いてから突き固める作業の具合です。不十分だと家が傾く原因になってしまいます。

最後にコンクリートを流し込む前に、配管用スリーブ(貫通孔)の位置に間違いがないか、基礎伏図や設計図でチェックを。後から孔を開けると、強度に問題が発生しかねません。基礎と土台をつなぐアンカーボルトの間隔や基礎への埋め込みの深さも確認しましょう。

基礎が完成したら、地盤面から基礎の上端までが規定の高さを満たしているか、高さにムラがないかをチェックしましょう。また、コンクリートに亀裂が入っていないかもしっかり見ておきたいものです。

②地縄張り

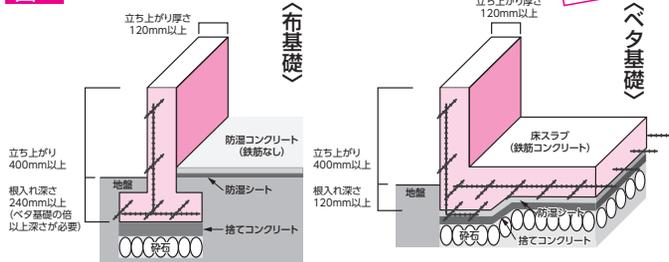
地縄張りとは、敷地に縄やヒモを張って家をどの配置で建てるのかを決める作業です。建物の位置が隣地に近つき過ぎているか、方位や全体的なバランスはどうかなど、図面上では分

からなかったことも現場で見るとよく分かることもあります。また、地盤の高さも重要です。建物の地盤が周囲や道路より低いと、大雨の時などに浸水してしまいます。地盤の高さが整地後にはどれ位の高さになるか現場監督に確認しましょう。

次に、基礎の鉄筋が設計図通りの間隔や太さになっているか確認しましょう。また、鉄筋のつなぎ目や二重にした建物の角、ひび割れがおきやすい換気口の

基礎が完成したら、地盤面から基礎の上端までが規定の高さを満たしているか、高さにムラがないかをチェックしましょう。また、コンクリートに亀裂が入っていないかもしっかり見ておきたいものです。

図1 【一般的な2つの基礎工法】



ポイントC



基礎の大きさと形状に合わせ、「バックホー」(掘削機械)を使い地面を床堀りしているところ

ポイントD



地縄張りは建物や柱の位置、基礎の高さなどを決める重要な作業

